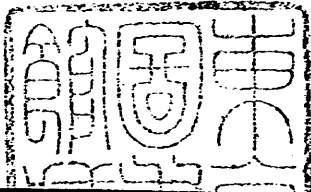


龜谷  
行編

脩身兒訓

三

K110.1  
29  
3



修身兒訓卷之三



立志

龜谷行編

○道近しと雖ども。行ろぎまハ至らば。  
事小なりと雖ども。爲ざれを成らば。韓詩

外傳

○有志の士々利又此如し。百邪辟易也。  
無志此人を鈍刀の如し。童蒙侮翫也。言志

録

○人事百般をばく遜讓を要す。但志を師に讓らざらざべく。又古人に讓らざらべし。同上

○馬援曰く。丈夫の志たる。窮してハ益堅らざるべし。老て益壯あるべし。

第二章

勉強 愛日

○陶淵明の詩に曰く。盛年を重て来ら

ど。一日を再び晨あり難し。時々及びま當に勉強をべし。歲月を人を待とず。

○勃古斯敦曰く。我、他人より一倍の光

陰に用ゐる。一倍に勞苦を爲さば。必だ他

人乃成せる事業を成し得べし。歐米立志金言

○光陰の重んぢるべきを知るときハ。定期

を愆らざるの習。自ら生むべし。同上

○禮諾爾圖曰く。辛苦此事を。卓絶の才

み進むべきの道なり。絶妙の地位を。辛苦の人比獲べき恩賞あり。同上

○常々勞作し々已まど。職業の繁多あるを嫌えず。世務に任す。他人と交通し實事を砥礪するを。人生に主義を定む。西洋

論品行

○を一事の成就せんことを望まば。自ら往て去るを強為すべし。も一事比成

就せんことを望まざれば。他人にイヒツケ吩咐

すべし。歐米立志金言

○那比爾ナビル曰く。困難愈甚しければ。愈多く勞苦を為さべく。危険愈甚し多れば。愈多く勇氣を顯さべく。同上

○勤勉の人を。萬物を化して。黄金と爲すの術あり。光陰と雖ども。亦之を黄金に化さべく。同上

第三章 學問

○嘉肴ありと雖どを。食をさせば其旨を知らざる也。至道何里と雖ども。學をばれば其善哉知らざる也。禮記樂記

○朱子曰く。學問の道。敢て自りて是なりとせず。虚くして以て人み受まば。自ら得ることあり。

○又曰く。學を爲さぬ。須らく今は是

みして。昨ハ非あるを覺ゆべし。日子改め月も化して。便ち是長進也。

○薛文清曰く。他事をして。學を好むの心も勝と去めざれば。必ず進むことあり。

○倪文節曰く。書を觀るふと一卷あるを。一卷の益あり。書を觀ること一日を。一日乃益あり。

第四章 交際

○荀子曰く。我を非せざる者ハ。當る者ハ。吾が師あり。我を是として當る者も。吾が友あり。我は諂諛する者ハ。我が賊あり。○善人を璞玉の如く。悪人を錐鑿の如く。玉。錐鑿を経ざれば。器を成さず。凡そ我を毀る者ハ。乃我を成る者也。紳瑜

○小人固より當る遠くべし。然れども亦顯た仇敵となさるべし。君子固

と當り親むべし。然れども亦曲て附和さるべし。願體集

○事を人に問ふハ。虚懐を要す。毫も挾せ所あるべからば。人に替て事我處するを。周匝を要し。稍缺く所あるべからず。言志録

○人を談話をするに。屢を重し。長らるべからば。長談を人を倦ましめ。人に嫌たる。

智氏  
家訓

○人と論をるハ。須らく容貌從容。言語  
温厚なふべし。決して劇烈な言をな  
す。紳瑜

○人乃詐りを覺るも之を説破せし。其  
自ら愧る我待て可なり。若し夫れ愧を  
知らざる人ハ。又何ぞ責るん。金言

○人の小過を責めし。人死陰私を發ら

也。人の舊惡を念をす。三乃者も惟以て  
徳を養ふ此に在るを。亦以て害を遠く  
之べし。遵生  
ハ賤

○年高くとまき徳なく。貧極りて恥を  
免惡し。て禮を顧みず。愚謬し。て禮  
を明かせず。此四等の人を。與り較む。處  
りたす。習是  
編

○一坐の中。好て言を以て人を彈射を

ふ者あきだ吾宜く端坐沈黙一。以て之  
を銷を<sup>ふ</sup>。此茂不言の教や謂ふ。願體集

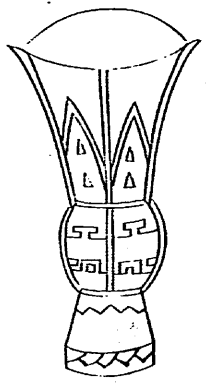
○人此私語を見てハ。耳を傾て竊小聽  
くま<sup>と</sup>勿き。人此私室小入りてハ。目を  
側て旁觀を<sup>る</sup>こや勿<sup>流</sup>。同上

○隣家喪あ<sup>れ</sup>む。快飲高歌を<sup>ふ</sup>ら<sup>せ</sup>む。

新喪の人小對一。劇談大笑を<sup>べ</sup>ら<sup>う</sup>む。瑜紳

○薛文清曰く。郷人小處を<sup>る</sup>。皆當小敬

觚不觚



觚哉觚哉

一て之を愛を<sup>べ</sup>一。  
三尺の童子と雖ど  
も。亦當小誠心を以  
て之を愛すべ一。侮  
慢を<sup>べ</sup>ら<sup>ら</sup>む  
○又曰く。人の微賤  
小於る。皆當小誠敬  
を以て之を待つべ



。忽せよ。慢るべからず。

○子弟僮僕。人とあひ争ふ者あまらば。只自うと戒飾を行ふべし。怒我別人。加ふべからず。金言

第五章 處事

○事を做す。最も宜く熟思緩處を登し。熟思をせむ其理を得。緩處をれば其當を得。紳瑜

○遠路に書札を寄せるに。當に前夕に於て之を成すべし。發するに臨み。勿々之を成すべし。必だ遺漏多し。金言

○人の書畫を借り。損汚遺失をべからず。閱し畢らば。即ち還すべし。借書中。偽字あまらば。隨て別紙を以て記出。本條の下に置くべし。同上

○貝原益軒曰く。盛怒乃時。小方り。慎て

妄小簡を與へ。言を發せざることを勿れ。之を妄小すまば。必ぞ悔あり。

○許平仲曰く。盛怒の時を於て。堅く忍びく動うず。心平なるを俟ち。審みして之小應ぞ。庶幾くハ失ふ。

○徑路窄き處ハ。一步を留め。人小與へて行り去め。滋味ある時ハ。三分を減下。人小譲りて嗜まむ。此ハ是世我渉る

の法あり。習是編

第六章 治産

○彌爾列爾曰く。工事を勤むるハ。たとひ極く勞苦の業ありとも。中ハ無量の樂趣充滿也。又自らを此身を進修する所以の具なり。歐米立志金言

○たとひ卑賤ある辛苦乃職業とりとも。毎日務の定課を完うたらんハ。

と此他の時間を盡くみる甜美なるを  
覺ゆ<sub>レ</sub>益き<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>也。同上

○辛苦して賤工を爲し。艱難して衣食  
得るハ。百事具足し。枕を高之して。眠  
る<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>比<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>終<sub>レ</sub>ど。更<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>幸<sub>レ</sub>あり。同上

○正直<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>生<sub>レ</sub>業<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>為<sub>レ</sub>し。人<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>害<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>加<sub>レ</sub>へ<sub>レ</sub>ば。  
己<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>属<sub>レ</sub>せ<sub>レ</sub>ざる<sub>レ</sub>物<sub>レ</sub>を。之<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>其<sub>レ</sub>主<sub>レ</sub>に<sub>レ</sub>還<sub>レ</sub>せ<sub>レ</sub>べ  
し。同上

○和睦勤儉な<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>者<sub>レ</sub>を。家<sub>レ</sub>必<sub>レ</sub>で<sub>レ</sub>隆<sub>レ</sub>え。乖<sub>レ</sub>戾  
驕<sub>レ</sub>奢<sub>レ</sub>なる<sub>レ</sub>者<sub>レ</sub>を。家<sub>レ</sub>必<sub>レ</sub>で<sub>レ</sub>敗<sub>レ</sub>る。此<sub>レ</sub>理<sub>レ</sub>。券<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>操  
る<sub>レ</sub>が<sub>レ</sub>如<sub>レ</sub>し。斷<sub>レ</sub>々<sub>レ</sub>爽<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>ず。且<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>驗<sub>レ</sub>する<sub>レ</sub>に。  
甚<sub>レ</sub>ど<sub>レ</sub>速<sub>レ</sub>う<sub>レ</sub>な<sub>レ</sub>め。金言

第七章 安分

○譚子曰く。奢<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>者<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>富<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>ても<sub>レ</sub>足<sub>レ</sub>ら<sub>レ</sub>ば。  
儉<sub>レ</sub>なる<sub>レ</sub>者<sub>レ</sub>ハ<sub>レ</sub>貧<sub>レ</sub>志<sub>レ</sub>く<sub>レ</sub>ても<sub>レ</sub>餘<sub>レ</sub>あり。奢<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>者<sub>レ</sub>を  
心<sub>レ</sub>常<sub>レ</sub>に<sub>レ</sub>貧<sub>レ</sub>しく。儉<sub>レ</sub>なる<sub>レ</sub>者<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>心<sub>レ</sub>常<sub>レ</sub>に<sub>レ</sub>富<sub>レ</sub>む。

○分り過ぎ福を求めた。適以て禍を速  
めん。分り安んじ禍を遠くせむ。將ふ  
自ら福を得んとは。紳瑜

○人の一生も路を行くが如し。一步

進むとや以て。足れりとせむべし。歐米立  
志金言

○伯氏ボウシ曰く。吾が富む。吾が産業の大を  
る非ぞして。吾が需用の少きあり。

第八章 倫常

○白虎通曰く。三綱と云何の謂ぞや。

君臣父子夫婦を謂ふなり。君は臣に綱  
たり。父を子に綱たり。夫は妻の綱なり。

○孟子曰く。父子親あり。君臣義あり。夫  
婦別あり。長幼序あり。朋友信あり。

○貝原益軒曰く。孝を百行の本あり。故  
ふ人として孝あはせむ。其本先づ絶  
ゆ。他の善行良才ありと雖ども。觀るは

足らぬ。

○曾子曰く。父母之を愛せざるは。喜て忘れぬ。父母之を敬めぬを。懼て怨むるは。父母過ち有るは。諫て逆えず。

○程伊川曰く。病て牀に卧し。之を庸醫に委ぬるは。不慈不孝に比し。親に事ふ者も。亦醫を知らざる可らば。

○父母は其子の顯榮を以て。己の幸と

為す。故に子とる者。其恩を忘る。悪業を行ふ。父母をして憂る事。勿し。勸善

訓蒙

○兄弟を過失ありとも。互に慎んで之

を隠諱せしむ。同上

○人。友悌を欲せば。一身の欲を抑制し。

常に兄弟姉妹を惠愛し。其益を思ふこと。

猶己の益を欲するがごとくをべし。同上

○族人を皆其祖先  
 を同うし。共々一家  
 戎爲を之のなり。故  
 互に親愛し。互に  
 保護し。其家名を損  
 せど。之戎子孫を傳  
 ふべし。同上

○人其國を愛敬す

勤儉治家之本  
 讀書起家之本  
 和順齊家之本  
 循理保家之本  
 選朱文公語

多た。猶其父母を愛敬するがごとくするべ  
 し。若し國に於て非理の事を爲すと雖  
 ども。我之を怨みて。其害戎爲をべし。上同  
 ○谷惹西グレツセ曰く。我が財貨。我が性命ハ。我  
 に属する物にあらざれば。其實を皆我が國  
 に属するものなり。歐米立  
 志金言

第九章 厚德

○陳幾亭曰く。人々周うす我を樂む者

は。自くら奉ずるふと必ぢ薄し。身小奢  
ふ者た。惠の親不及む。録畜徳

○吳懷野曰く。其心厚た者。其福厚し。  
其量弘き者。其徳弘し。日計足らざる  
ども。月計餘りあり。同上

○人乃短を匿はむ。人の急をまぐそざ  
るハ。仁義の人。非ざる也。同上

○君子能く人の危きを扶け。人乃急を

まぐくふ。固く是美事なり。誇らざるは  
益善し。願體集

○恩を施すと雖ども。後其報を得ん  
とせざるの念ある者ハ。善を行ふまあら  
ど。唯恩を交換以るの之。之我稱譽する  
不足らむ。勸善訓蒙

○人た己の産業と。他人比窮乏を比  
較し。以て恩を施を願し。同上

○小人専ら人此恩を望む。恩過ぐまば感ぜば。君子輕く人の恩を受ず。受くれば忘を難し。紳瑜

○我人功あまば念ふべからず。而して過ちた念をざる筈ならず。人我に恩阿終ぞ忘るべからず。而して怨を忘るざる筈ならず。同上

○薄福の者を必ず刻薄あり。刻薄をれ

を福更に薄し。厚德の者を必ず寛厚なり。寛厚を終を徳更に厚し。同上

○貧者の悲叫を聞きて。感動をざる者ハ。真に薄情と謂ふ也。他日己が悲し叫ぶことあらん時。人之を聞きて。憫まざる也。勸懲雑話

○汝他人を恤まば。人も亦汝を恤まん。汝善く他人を遇せば。人も亦善く汝を



遇さん 同上

○孔子曰く。善を為す者ハ。天之小報る  
よ福を以てし。不善を為す者ハ。天之小  
報る小。禍戕以て也。孔子家語

○陰徳ある者ハ陽報あり。陰行ある者  
そ必び昭名あり。淮南子

○父母善を積めた。子孫家を固くし。父  
母善を積まざれた。子孫家戕覆た。勸懲  
雜話

○善ハ善報あり。惡ハ惡報あり。善惡報  
ある也。時節未ど至らば。事林廣記

○劉宗周曰く。一時人を勸多るハ口  
を以て也。百世人戕勸むるハ書を以  
て也。善本を刊刻し。廣く流布をなす。  
亦人と善をなす乃一端也。劉氏  
人譜

第十章 躬行

○薛文清曰く。天地々吾ガ父母あり。凡

そ行ふ所あまた。吾父母の命に順ふことを知りて。其他を恤ふるに違阿らんや。

○又曰く。天を敬むること。當り吾が心を敬するより始む。其心我敬するに能はず。能く天を敬すと謂ふ者え妄を里。

○胡文定曰く。心を立つるに。忠信に

あて。欺のざるを以て主本といふ。

○孝悌忠信を身を立つるの大本。禮義

廉耻を己を行ふの先務あり。省心  
雜言

○坡可羅ボックル曰く。智識ハ日新進動の活物

あり。道德ハ萬世不易の定則あり。

○難に臨まざれば忠臣の心を見ず。財

に臨まざれば義士此節を見ず。省心  
雜言

○丈夫一生廉耻を重しといふ。切に人子

求る勿也。死生命あり。續小児語

○凡そ児童ハ。須らく是衣冠整齊。言動端莊あるべし。蕪耻の二字を識り得し

バ。自然に正大光明の氣象あり。言行彙纂

○子貢問て曰く。一言にして以て身を終るまで之を行ふべき者ありや。子曰く。其恕ろ。己が欲せしむ所ハ。人亦施すを望む勿れ。

○中庸に曰く。忠恕道を違ふると遠からば。諸戎己に施して願ふ人バ。亦人亦施すを望む勿也。

○朱子曰く。己が心を盡しを忠と云ふ。己が推して人不及に恕と為す。

○司馬温公嘗て言ふ。吾人亦過ふ者あり。但平生為す所の事。人亦對して言ふべからざる者あり。劉氏人譜

○省心録云曰く。晝の為に所ハ。夜必だ之を思ひ。善あまバ樂も。過あまバ懼る。君子ある哉。

○一日の中。或ハ一善言を聞た。一善行を見。一善事行へバ。此日虚しく度らんとす。紳瑜

○衣垢きて洗をせ。器缺て補をせ。人み對して猶慙る色あり。行垢きて洗をせ。

周廟  
金人



三緘  
其口

徳缺て補をせ。天子對して豈み愧る心無うらんや。樵談

○程子曰く。言語を慎み。以て其徳を養ひ。飲食を節し。以て其體を養ふ。事の至近にして。繋る所

至大なる者也。言語飲食不過ぐるハ莫し。  
 ○富貴ハ傳舎の如し。惟謹慎を怠む久  
 く居ふことを得難し。貧賤ハ敝衣の如  
 し。惟勤儉を怠む以て脱卸をべし。習是編  
 ○家長禮を知らば。男女勤儉。衰門と雖  
 ども亦必ず興るあり。其一時の貧富ハ。  
 未だ論ざるも足らば。紳瑜  
 ○政を為さば要あり。公と曰ひ。清と曰

ふ。家を成さば道何ぞ。儉と曰ひ。勤と曰

ふ。省心  
 雑言

○司馬温公曰く。凡そ諸の卑幼。事大小  
 となく。専らに行ふことを得る母也。必  
 ず家長の咨稟せよ。  
 ○自ら重んぜざる者ハ辱を取り。自ら  
 畏まざる者ハ禍を招く。自ら満たばる  
 者と益を受け。自ら足まるとせざる者

て聞我博く之。願體集

○門内嬉笑怒罵を聞くこと罕きを之を。其家範知るべし。座右多く名語格言を書き置バ。其志趣知るべし。同上

○楊慈湖曰く。智ある者ハ問を好て樂之。智なき者々自ら用ゐて憂ふ。畜徳録

○人の小過を責めば。人乃陰私を發せど。人の舊惡を念をざるを。真は是妙人あり。

あり。紳瑜

○忍も亦辨あり。勢を畏むて忍ぶ者ハ。忍と為るは足らぬ。畏る可きの勢無くして忍ぶ者ハ。是を真小忍と爲ん。同上  
○人より恩を受けぬ。必之を報ゆ。應きこと。猶人より借りたる金貨我還せ。後記子等。勸善訓蒙

第十一章

警戒

○荀子曰く。人小三の不祥あり。幼子一  
 て敢く長小事へば。賤小志く敢て貴小  
 事へば。不肖ありて敢て賢小事へざる  
 是。是人乃三不祥なり。

○不肖を以て人を待つ。愚者と雖ども  
 甘んぜば。非禮を以て人我處せ。賤者と  
 雖ども亦怨む。習是

○食を節みれば。疾あり。言を擇べば

禍あり。禍の生ずるも。天より降る小あ  
 らば。皆其口より出。西疇  
常言

○凡そ宴會賓客雜坐ハ。質疑問難の時  
 小非ば。詩文を講説し。自ら博雅を誇る  
 處あらず。恐らくも知らざる者之を恨  
 むん。金言

○古人の是非を品評するハ可あり。今  
 人乃善惡を妄議するハ不可あり。恨ミ

我取るおと。多くハ妄議不在リ。言志録

○才も猶ホ劍のこと。善く之を用ゐれど。以て身を衛るべし。善く之を用ゐれば。以て身我殺す事足る。同上

○人此癖を擬するハ。卑夫の好む所にして。大人長者の賤しむ所なり。計らざるの禍を生むることやあらん。智氏家訓

○人の善を聞て疑ひ。人の惡を聞て信

ト。好て人此短を説き。人の長我計らば。其人平生必び惡ありて善ホ。願體集

○我ガ人ハ如うざるを怨むる我休よ。

我ハ如あはれる者尚ホ衆し。我ガ人ハ勝るを誇ふを休よ。我ハ勝る者還ホ多し。紳瑜

○常ハ虚誕を説く者ハ。時ありて信誠のおとを言ふと雖ども。人之を信ぜば。同上

○大醉も人の不善を増え此ハ非ず。



更ニ人ヲをシて心ヲ有セざるの不善ヲ生ゼ一ヲ也。勸善訓蒙

○朝ニ去リて食ヲをシざるヲ。晝ニ去リて饑ム。少ク一ニと學ビざるヲ。壯ニ去リて惑ス。饑ムる者ハ猶ホ恐ホぶべし。惑スふ者々奈何トをすル處カらズ也。言志錄

○安逸ヲを恣ニにシてシば。己ガ失ヲを増ス。才能ヲを恃ルべし。人ノ嫉ヲを招ク。靜寄軒文集

○我ノ如ク一ニ善ヲを為スべし。一介ノ寒士ト雖モどモ。人ノ其徳ヲ感ズるあり。我ノ如ク一ニ惡ヲを為スべし。位人ノ臣トを極ムと雖モ。人乃其過チを議スる有リ。同上

○人ノ貴賤ヲを論ゼず。一日當さニ作スる事ノあり。若シ一ニ飽食煖衣して。事ヲを事トとせズんば。何ぞ好結果ヲ得ルを得ん。願體集

修身見訓卷之三終

備身所記

卷之三

光風社藏版

明治十三年十一月廿五日版  
同十四年五月二日出版  
同十五年五月卅一日再版  
同十七年四月九日三版御届

第廿三丁裏七行  
目重複アリ再版  
ニ付改正ス

編者出板

東京府士族光風社長

龜谷行

東京神田區金澤町十番地

柳原喜兵衛

大坂北久太郎町

牧野善兵衛

東京通四丁目

吉川半七

同 南傳馬町二丁目

石川治兵衛

同 馬喰町二丁目

幾兌

稟准

東京光風社

明治十四年之冬以後製本以此紙為証

